

漁港は魚の保育園

http://www.gyokou.or.jp/

漁港漁場月報

平成29年10月15日発行
毎月1回15日発行
編集兼発行人 公益社団法人 全国漁港漁場協会
橋本 牧
東京都港区赤坂1-9-13三會堂ビル8階
電話 東京(5114)9981
定価 1部 70円
(会員の購読料は会費の中に含む)

「4次産業革命と漁村・漁港・漁場の未来」をテーマ



交流会議に参加した一行

この交流会議は、平成9年に東京で開催して以来、毎年日韓両国で相互に開催し、漁港漁場のインフラ整備、維持管理及び関連技術等に関する諸問題について発表

第20回日韓漁港漁場漁村技術交流会議が、9月14日(木)、韓国ソウル市コリアナホテルにおいて、特殊法・韓国漁村漁港協会の主催により「4次産業革命と漁村・漁港・漁場の未来」をテーマとして開催され、日韓の漁港漁場関係者約80名が参加した。

第20回日韓漁港漁場漁村技術交流会議

韓国ソウル市で開催



挨拶する橋本牧会長

この交流会議は、平成9年に東京で開催して以来、毎年日韓両国で相互に開催し、漁港漁場のインフラ整備、維持管理及び関連技術等に関する諸問題について発表

会議は、日本側から漁港漁場協会会長を団長として、水産庁、漁港漁場関係団体、民間企業から17名が参加した。

挨拶する橋本牧会長
①ICTを活用した漁港の高効率化の取組について

①水産分野4次産業の先進のためのIoT基盤構築
②BIM技術を利用した漁港施設の統合管理

③新たな漁港
④ICTを活用した漁港の高効率化の取組について

現地視察の状況
野神功一水産庁整備課漁港漁場専門官

水産庁は、10月3日(火)午後1時30分から農林水産省庁舎において、平成30年度「漁港・漁村・漁場」関係担当者会議を開催した。



担当者会議の様子

東日本から非公共については、水産庁で進めている漁港の再生・多岐に渡り要求している。今回の長期計画を刷新し、漁村の賑わいについて、漁村の賑わいについて、漁村の賑わいについて

概要説明を受け、マダラやスケトウダラの種苗生産施設、イセエビ、ギンザケ、ヒラメの養殖棟などを見学した。

平成30年度の公共事業の取組を強化したい。その際、用地の利用については、有効利用の促進を図りたい。また、働き方改革に関連して、先般8

「防犯漁村課題事項」
「防災漁村課題事項」
「漁港漁場再生支援交付金」

「輸出促進対策」
「漁港漁場再生支援交付金」
「漁港漁場再生支援交付金」

「輸出促進対策」
「漁港漁場再生支援交付金」
「漁港漁場再生支援交付金」

「輸出促進対策」
「漁港漁場再生支援交付金」
「漁港漁場再生支援交付金」

「輸出促進対策」
「漁港漁場再生支援交付金」
「漁港漁場再生支援交付金」

「輸出促進対策」
「漁港漁場再生支援交付金」
「漁港漁場再生支援交付金」

「輸出促進対策」
「漁港漁場再生支援交付金」
「漁港漁場再生支援交付金」

「輸出促進対策」
「漁港漁場再生支援交付金」
「漁港漁場再生支援交付金」

「輸出促進対策」
「漁港漁場再生支援交付金」
「漁港漁場再生支援交付金」

「輸出促進対策」
「漁港漁場再生支援交付金」
「漁港漁場再生支援交付金」

「輸出促進対策」
「漁港漁場再生支援交付金」
「漁港漁場再生支援交付金」

「輸出促進対策」
「漁港漁場再生支援交付金」
「漁港漁場再生支援交付金」

「輸出促進対策」
「漁港漁場再生支援交付金」
「漁港漁場再生支援交付金」

「輸出促進対策」
「漁港漁場再生支援交付金」
「漁港漁場再生支援交付金」

「輸出促進対策」
「漁港漁場再生支援交付金」
「漁港漁場再生支援交付金」

「輸出促進対策」
「漁港漁場再生支援交付金」
「漁港漁場再生支援交付金」

ながさきSUISAN・サマースクール 開催

〔社〕長崎県漁港漁場協会は平成29年9月26日、27日、「ながさきSUISAN・サマースクール」を長崎市内のホテルセントヒル長崎で開催した。

この勉強会は、本県水産業の発展と地域の活性化を図るため、漁業の生産性向上に関する課題をテーマとして、関係者を対象に実施したもので90名が参加した。

今回のサマースクールは水産庁、長崎県、長崎県漁港漁場協会の長崎県漁業振興課、長崎県漁業振興課事務室の協賛で実施した。

「山・川・海の絆を深めて 漁業の生産力アップ」



シンポジウム会場の様子

東京海洋大学先端科学技術研究センター

ICTやビッグデータを活用

東京海洋大学先端科学技術研究センターは、今後ますます重要性が増すといわれている情報通信技術（ICT）やビッグデータなどの最先端技術を漁業・漁村のインフラ整備・管理に活用し、地域の再生を図ることを目的とした「漁業地域再生プロジェクト」を今年7月に、立ち上げた。また、このことを広く発信するため、9月27日（水）午後1時30分から東京海洋大学品川キャンパス白鷹館において、約160人が参加し、キックオフシンポジウムが開催された。

シンポジウムの冒頭挨拶を行った竹内俊郎東京海洋大学学長は、「過疎化が進む沿岸漁業・漁村の再生に向けた漁業地域再生プロジェクトを推進し、ICTやビッグデータを活用し、地域の再生を図ることを目的とした『漁業地域再生プロジェクト』を今年7月に立ち上げた。また、このことを広く発信するため、9月27日（水）午後1時30分から東京海洋大学品川キャンパス白鷹館において、約160人が参加し、キックオフシンポジウムが開催された。シンポジウムの冒頭挨拶を行った竹内俊郎東京海洋大学学長は、「過疎化が進む沿岸漁業・漁村の再生に向けた漁業地域再生プロジェクトを推進し、ICTやビッグデータを活用し、地域の再生を図ることを目的とした『漁業地域再生プロジェクト』を今年7月に立ち上げた。また、このことを広く発信するため、9月27日（水）午後1時30分から東京海洋大学品川キャンパス白鷹館において、約160人が参加し、キックオフシンポジウムが開催された。」

キックオフシンポジウム 漁業地域再生に向けた可能性



サマースクールの様子

開校し先立ち主催者を代表し友広郁洋会長が挨拶し、続いて長崎県水産部長清水一朗部長の来賓挨拶があった。

サマースクールは「山・川・海の絆を深めて漁業の生産力アップ」をテーマに5部の構成で、26日13時～27日17時まで参加者は聴講9名の熱心な講演に聴き入りした。

その演題と講師名の概要は次の通り。

○第一部「日本漁業の明日を拓くプロジェクト」 講演者 X.Y. 講演者 新たな水産基本計画について 水産庁漁政課企画課課長補佐 今治和人

○第二部「海洋国・日本の食文化のルーツを」 講演者 新たな漁港整備課長 期計画について 水産庁 漁港整備課課長 中村克己氏

○第三部「山・川・海の苦悩―長旅を癒す漁場―」 講演者 西マリナ海濱の口 水産庁研究・教育機構西海区水産研究所資源生産部 長 吉村拓氏

○第四部「漁師と漁村の知恵と未来を拓く海づり」 講演者 粗放的なシジキ増殖を指す取組と、島原半島南部漁業協同組合の取り組み 吉田亜紀氏

○第五部「国際食糧システムと持続可能な漁業」 講演者 河川節水と魚の知恵と、元以底魚船組合顧問井善氏

○第六部「国際食糧システムと持続可能な漁業」 講演者 河川節水と魚の知恵と、元以底魚船組合顧問井善氏

高齡化が進む沿岸漁業・漁村の再生に向けた「漁業地域再生プロジェクト」を立ち上げた。今後、広く産業界とも連携を強めながら政策提言に取り組みたい。」と挨拶した。

続いて、中泉昌光センター長が「漁業地域再生プロジェクト」の現状を報告し、同プロジェクトの今後の進め方については、具体的な研究課題に取り組みながら、漁業地域再生のシナリオづくりを進め、政策提言につなげていきたいと説明した。講演では同センター長が「漁業地域再生プロジェクト」の現状を報告し、同プロジェクトの今後の進め方については、具体的な研究課題に取り組みながら、漁業地域再生のシナリオづくりを進め、政策提言につなげていきたいと説明した。

「築地セミナー」を開催

水産土木建設技術センター

一般社団法人水産土木建設技術センター（全資）は、9月20日（金）午後3時30分から同センター会議室において、40名超の参加による築地セミナーを開催した。このセミナーは、

論では、各パネラーから各地の地域資源の現状や地域再生の可能性について意見交換が行われ、今後、年々一回のペースでシンポジウムを行い、その都度テーマを考案し、着実に進め、最終的なシナリオづくりがなされていくと報告があった。

【漁港整備課への転任】 漁港整備課長 増殖推進課長 増殖推進課長 増殖推進課長 増殖推進課長 増殖推進課長

【水産庁人事異動】 (十月二日) 総括調整課長 増殖推進課長 増殖推進課長 増殖推進課長 増殖推進課長

【漁港整備課への転任】 漁港整備課長 増殖推進課長 増殖推進課長 増殖推進課長 増殖推進課長

【水産庁人事異動】 (十月二日) 総括調整課長 増殖推進課長 増殖推進課長 増殖推進課長 増殖推進課長

漁港往来

自9月1日 至9月30日

松岡孝与、福田業務課長は 岩手県へ出張

9月13日（水） 全国漁港漁場協会橋本会長、 福田業務課長、金刺主幹は韓国へ出張

9月26日（火） 高知県漁業協同組合連合会事務局長 高知英八郎氏、高知県漁港漁場協会事務局長小松澤博氏

9月9日（土） 山下博徳氏 島根県漁港漁場協会事務局長 全国漁港漁場協会橋本会長、

第21回海岸シンポジウム

開催案内

第21回海岸シンポジウムは、9月30日（土）午後1時～東京一都府県庁舎内（東京都庁）において開催される。

このシンポジウムは、高潮被害の軽減と高潮対策の推進を目的として開催される。



挨拶する宇賀神理事長(左)と講師の内田課長補佐